



# 充放電サイクルにともなう層状酸化物正極の結晶構造変化

南田 充朝, 川合 航右, 大久保 将史  
早稲田大学

キーワード：リチウムイオン電池, 層状酸化物, X線回折

## 1. 背景と研究目的

近年、リチウムイオン電池 (LIB) の需要は、電気自動車のバッテリーなどの用途を中心に拡大している。LIB の更なる性能向上の課題としてサイクル特性の改善が挙げられる。例えば、高いエネルギー密度を発揮し、高コストな Co を含まないため安価な Ni rich 正極の一つである層状酸化物  $\text{LiNi}_{0.9}\text{Mn}_{0.1}\text{O}_2$  の場合、充電時に脱離した  $\text{Li}^+$  のサイトに Ni が不可逆的に移動することで、収容可能な  $\text{Li}^+$  のサイト数が減少し、充放電容量が低下する。<sup>1</sup> よって、Li 層に含まれる Ni の割合を精密に定量評価することは、劣化の原因を特定する上で重要である。本研究では、放射光 X 線を用いた粉末 X 線回折 (XRD) を用いることで、最大 200 サイクルの長期の充放電に伴う  $\text{LiNi}_{0.9}\text{Mn}_{0.1}\text{O}_2$  の構造変化を追跡した。

## 2. 実験内容

共沈法により  $\text{LiNi}_{0.9}\text{Mn}_{0.1}\text{O}_2$  を合成した。重量比 8:1:1 の  $\text{LiNi}_{0.9}\text{Mn}_{0.1}\text{O}_2$ 、結着剤ポリフッ化ビニリデン、導電助剤アセチレンブラックを分散媒 *N*-メチル-2-ピロリドン中で混合した。得られたスラリーをアルミ集電体に 100  $\mu\text{m}$  の厚さで塗布し、真空中で乾燥した。 $\phi 12\text{ mm}$  に打ち抜いた塗布電極を正極、Li 金属を負極、ガラス繊維濾紙 GB-100R をセパレータ、1 mol/L  $\text{LiPF}_6$  エチレンカーボネート/ジエチルカーボネート (1:1 v/v%) を電解液として使用したコインセルを作製した。カットオフ電圧を 2.7–4.3 V、充放電レートを 0.2 C、サイクル数を 1, 10, 20, 50, 100, 200 回として定電流充放電測定を行った。充放電後のコインセルを分解して正極を取り出し、ジメチルカーボネートで洗浄した。乾燥後、アルミ箔から正極粉末を剥がしてキャピラリーに封入し、粉末 XRD 測定を行った。得られた粉末 XRD パターンに対して、リートベルト解析を行った。

## 3. 結果および考察

定電流充放電測定の結果、200 サイクル後の容量維持率は 91% であることが分かった (Fig. 上段)。リートベルト解析により得られた格子定数の比 ( $c/a$ ) および  $\text{Li}^+$  層に含まれる  $\text{Ni}^{2+}$  の割合 ( $\text{Li}^+/\text{Ni}^{2+}$ ) を、Fig. 1 中下段に示す。尚、理想的な層状構造および無秩序岩塩型構造における  $c/a$  は、それぞれ 5.016 および 4.899 であり、 $\text{LiNi}_{0.9}\text{Mn}_{0.1}\text{O}_2$  における  $\text{Li}^+/\text{Ni}^{2+}$  サイトの交換割合と相関することが知られている。<sup>1</sup> 解析の結果、充放電サイクル後の試料の  $c/a$  および  $\text{Li}^+/\text{Ni}^{2+}$  は、充放電前と比べて有意な差は見られなかった。したがって、粒子内部における  $\text{Li}^+/\text{Ni}^{2+}$  のサイト交換は、充放電サイクルの劣化に寄与しないことが示唆された。

## 4. 参考文献

1. M. S. Whittingham, *Chem. Rev.* 2004, 104, 4271–4302.

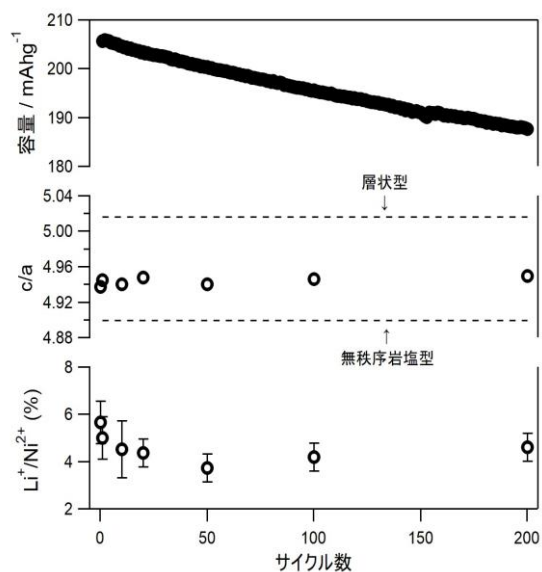


Fig.  $\text{LiNi}_{0.9}\text{Mn}_{0.1}\text{O}_2$  の放電容量、格子定数の比  $c/a$ 、 $\text{Li}^+/\text{Ni}^{2+}$  サイトの交換割合